

MIZUHO



瀬木学園だより

学校法人 瀬木学園

愛知みずほ大学・大学院

愛知みずほ短期大学

愛知みずほ大学瑞穂高等学校

March

2019

Vol.26

「とっておきMIZUHO」	1・2・3
「発健(見) MIZUHO」	4
「速報 MIZUHO」	5
「きらり☆MIZUHO」	5
「INFO MIZUHO」	5
「瑞想録」	5

祈るような所作の後、書家はためらうことなく筆を揮^{ふる}いました。そして、張りつめた静寂を破る観衆の嘆息とともに本学園の理念を表す「健」の一字が掲げられました。

今号では、いま、注目の書家、金澤翔子さんをお招きした企画と「障害者の学び」について3面にわたる特集としてお伝えします。

他の話題と合わせてお楽しみください。



きごう
揮毫する金澤翔子さんと書き上げられた書「健」



とっておき
MIZUHO

「共に学び、共に生きる」障害者の学びを巡って

今回の「とっておき」は2部構成です。まずは、愛知みずほ短期大学現代幼児教育学科特任教授、田中良三先生への障害者教育の現状に関するインタビューをお伝えします。続いて、ダウン症の書家として活動されている金澤翔子さんと母親で同じく書家の金澤泰子さんを短期大学に招いて行われた「第二回大学連携オープンカレッジ『共に学び、共に生きる』」^{*1}についてお伝えします。

田中良三先生インタビュー

Interview

M 障害者の「学び」の現状は？

NPO法人「学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会」^{*2}の「学習障害児・者」というのは、今で言う発達障害者のことですが、その会が運営する見晴台学園^{*3}は当初、5年制の高校として設立されました。ところが、そこに通う障害者の生徒たちが「(高校で3年間学んだあとに)周りの友達が大学に進学したり就職したりする中、自分たちだけがなぜさらに2年間多く通わなければならないんだ。」と言いましてね。そこで、2年間多く高校に通うことへの理由付けが必要となったので、本科と専攻科に分けたのです。今ではそれが全国的に広まっています。障害児教育に携わっている現場の先生たちは、生徒にもっとゆっくりじっくり学ばせたいと思っているのです。今では寝たきりの子も高等部に行くことができるようになったのですが、3年後にはトコロテン式に卒業させられてしまうのです。もう少し時間をかけられればもっと成長することができるのに、中途半端な段階で卒業させてしまっているのが現状です。そのような中、文部科学省が今までの生涯学習の捉え方、つまり学校卒業後から社会への移行期を位置付けたのです。それが「福祉型専攻科」であり、今では全国40箇所ほどに広まってきています。

M 大学連携オープンカレッジとは？

通常のオープンカレッジだけでは大学の単独行動となってしまう

ます。そこで、「みずほ短期大学」をはじめとする諸大学と見晴台学園大学^{*4}が連携を取ったのです。健常者と障害者が「共に生きる」以前に「共に学ぶ」ということが、青年期のこの時期に一番必要ではないかと思い、実施しています。一緒に学ぶのは無理ではないかと思われそうですが、一緒に学べるような内容もたくさんあり、それを我々が作っていかないといけないのです。「学ぶ姿勢」というものは、大学入学後すぐには身につけていないものですが、一緒に学ぶうちにお互いに影響し合い、その姿勢ができてくるものだと思います。それを実験・実証しようというのが、この大学間の連携です。障害者は同年齢と比べ視野が狭いので、その世界だけで生きるのではなく、小中学生の時と同じように、青年期の今の時期にも普通に学ばせてあげたいという思いがあります。逆に健常者にも、障害者の本当の姿に触れて、理解してほしいという思いもあります。共に学び、共に交流する機会があって始めて理解ができていくものだと思いますので、今までブラックボックスになっていた青年期に視点をあてました。

M 今後の取り組みは？

私はNPO法人で「生涯学習セミナー」を昨年から今までに5回実施しています。現在、法人の中には中学生から60歳、70歳くらいの高齢者までがいるのですが、中学生には中学生なりの発達課題や社会的課題があり、高齢者には高齢者なりの心身の衰えなどの問題が



あります。しかし、生涯を通して人間的発達を支援していくために福祉がある。憲法第25条で言う、「文化的で最低限の」の「文化的で」という視点がいつの間にか弱まりつつあります。しかし、中学生であろうが高齢者であろうが、生涯を通しての人間らしさの発達の支援が必要であり、そのために我々が教育や福祉に取り組んでいかなければなりません。

- ※1 田中先生が所属するNPO法人が応募し、採択された文部科学省の平成30年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の一環として実施。なお、第一回は平成30年11月に行われた。
- ※2 田中先生が所属するNPO法人。学習障害を持つ子どもたちの義務教育終了後の学習および自立を支援している。
- ※3 軽度の発達の遅れを持つ発達障害の子ども・青年や学習障害児のための無認可の学園。(同学園HPより)
- ※4 見晴台学園と同じ法人が運営。見晴台学園の卒業生や一般の高校および特別支援学校高等部などの卒業生が学ぶ。



田中良三先生プロフィール

- 愛知みずほ短期大学 現代幼児教育学科特任教授
- 愛知県立大学名誉教授
- NPO法人見晴台学園大学学長
- 全国障がい者生涯学習支援研究会 会長
- 愛知特別支援教育研究会会長
- 文部科学省学校卒業後における障がい者の学びの推進に関する有識者会議委員



揮毫中の翔子さんと泰子さん(右)

「共に学び、共に生



講演される泰子さんと泰子さんの話に手振りを交える翔子さん



翔子さん、泰子さんに質問する「連携大学」のみなさん



学園が理念とする「健」の文字が書き上げられた



笑顔で質問に答える
翔子さんと泰子さん

生きる」

第二回大学連携オープンカレッジ

平成30年12月15日(土)に「共に学び、共に生きる」と銘打った第二回大学連携オープンカレッジが短期大学で開催されました。当日は、連携大学の学生による活動報告が行われたあと、ダウン症の書家で、いま、最も注目を浴びる若手書家の一人である金澤翔子さんによる揮毫と、翔子さんの母親で同じく書家の金澤泰子さんの講演が行われました。ほかにも、翔子さんによる、ご本人が大好きだというマイケルジャクソンのダンスの披露や、当日が誕生日という泰子さんのために会場のみなさん全員の合唱「ハッピーバースデー」のプレゼントもあり、笑顔あふれるイベントとなりました。



マイケルの扮装で
「ハッピーバースデー」を
促す翔子さん



揮毫前に
手を合わせる
翔子さん



笑顔で
落款印を押す
翔子さんと
泰子さん



全員での
記念写真
撮影



発健(見)
MIZUHO

保育者の質の可視化を目指して

今回は短期大学現代幼児教育学科助教の加藤望先生が取り組んでいらっしゃる研究テーマを発健(見)しました。加藤先生にインタビューした内容を抜粋してご紹介します。



研究対象

科研費※をいただいて研究している分野は「一時預かり事業」という保育の形態です。保育所や幼稚園に通っていないお子さんで一時的に、月に1～数回程度保育を利用できる国の制度があります。そこで働く保育者は、保育士の資格は取得しているのですが、一時預かりに携わるという前提で仕事をしているわけではなく、配属先の保育所で一時預かり保育担当に振り分けられるという状況にあります。一時的な保育では、子どものメンバーや人数が毎日違いますし、起こり得ることも毎日違います。そのような、保育が不安定になる状況下で働く保育者はどのような実践的知識を持っているのでしょうか。その実践的知識を研究・調査しています。

※「科学研究費補助金」のこと。文部科学省と日本学術振興会が独創的・先駆的な学術研究の振興を目的として交付する助成金。

保育者の質・専門性の可視化

「保育」という言葉自体は「養護」と「教育」を指しています。「養護」はいわゆる「ケア」の部分にあたりますので、食事や排泄などの自立に対するケアなのです。一方「教育」は、小学校入学前に、学びたいという意欲を育てる部分に当たります。意欲的に活動するとか、充実して遊び込むとか、そういったことができるようにしていくことです。その前提として、子どもたちの情緒が安定して生活できるということがあります。私が一時預かりで抽出したいのは、保育者がどのように子どもたちを情緒の安定に導くのかというスキルの部分です。保育者の社会的な地位が低く見られがちというのは、今まで、保育者の仕事の素晴らしさや、スキルの必要性が可視化されていなかったことが大きな要因であると思っています。だからこそ、保育者の質や専門性を可視化させようという動きが保育界全体であります。

可視化の方法

現在、実際の保育所に動画撮影に入らせて頂いております。「マルチヴォーカル・ヴィジュアル・エスノグラフィー」という手法なのですが、撮影した動画を保育者に見てもらい、グループインタビューをして、実践的な知識を言葉にしていこうという研究方法です。今は4つの園に研究協力をして頂いています。



ここにも注目

実は、加藤先生は漫画にについても研究されています。保育者の専門性が漫画にどのようにイメージされているかがテーマだそうです。意外だったのは、保育漫画の主人公は、男性の保育者が多いということです。日本では男性の保育者の割合は1割程度なので、ストーリーとしては珍しいところを描きたいというところでピックアップされているのではないかと話されていました。



加藤望先生プロフィール

- 愛知みずほ短期大学現代幼児教育学科助教
- 愛知教育大学大学院
教育学研究科学校教育専攻幼児教育領域博士前期課程修了
- 研究テーマ：一時預かり保育における保育者の実践的知識に関する研究

Newspaper



速報 MIZUHO

フィギュアスケート・インターハイ
女子総合第2位!

1月24日(木)から27日(日)まで日本ガイスポーツプラザガイシアリーナ(名古屋市南区)で開催された、平成30年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)第68回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会の女子総合で、高等学校が第2位に輝きました。高等学校は女子総合では平成24年度から7年連続入賞です。



きらり☆ MIZUHO

「世界の舞台で跳躍」

バレエ国際大会ファイナリスト

ゆきの
高嶋由稀乃さん

大学の高嶋由稀乃さん(心理・カウンセリングコース2年)がバレエのコンテスト「Tanzolymp Asia(タンツオリンピ アジア)」(韓国ソウル 2018.12.7~12.9)のクラシック部門でファイナリストとなり、ベルリンで2月に行われるファイナル大会(「Tanzolymp Berlin」)への出場が決まりました。高嶋さんは心理・カウンセリングコースで心理学を学んでいますが、その視点は芸術の理解や自身の演技にも役立っているそうです。

ファイナリストの
認定証

高嶋由稀乃さん



観衆を魅了する華麗な跳躍



INFO MIZUHO

“MIZUHO発”「地域&MIZUHO」コラボ企画

名古屋市教育委員会連携キャンパス講座
「日本語と文字」

短期大学と名古屋市教育委員会生涯課の連携キャンパス講座「日本語と文字」が平成30年12月15日(土)に短期大学で開かれました。講師は短大非常勤講師の成田徹男先生で、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字など表記文字が多い日本語の特徴が「にぎやかな文字」として紹介されました。



「瑞穂区まちかどコンサート」

平成30年12月16日(日)に「ひと足早いクリスマスコンサート」が愛知みずほ大学・短期大学の1号館エントランスホールで開かれました。このコンサートは、瑞穂区役所主催の行事「瑞穂区まちかどコンサート」の一環で、「弦楽四重奏『リリカ』」とともに高等学校の吹奏楽部も出演しました。



● 瑞 想 録 ●

今号は学園が取り組む「連携」と、それに携わる「人」に焦点を当てました。そのため、各種イベントの紹介と関係者へのインタビューが中心となりました。本学園での「連携」は、今回ご紹介した地域のほかに「高大」についても盛んに行われています。改めてお伝えしたいと思いますので、どうぞお楽しみに。

転寝